

下水道と浄化槽

下水道は、家庭の台所・水洗トイレ・風呂や工場・事業所から出る汚れた水を、排水設備から道路下に埋設された下水道管に流して処理場に集め、きれいな水にして川に流す施設です。

都市部では下水道が普及していますが、平戸市は生月地区、田平地区の一部だけで、大半は下水道ではありません。平戸市で下水道が普及していない理由としては、中小河川が多く平地が少ないなど、処理施設や水の確保の問題、また、整備や維持管理にかかる財源の問題があるためです。

浄化槽も下水道と同様に生活排水を浄化して外に排水する設備ですが、主に家庭ごとに設置されます。



その中でも、平戸市では合併処理浄化槽（トイレ・台所など家庭内の汚水を併せて処理するもの）の設置を促進しています。

**平戸市浄化槽設置整備事業補助金**

合併処理浄化槽の設置には、補助制度がありますので、事前にご相談ください。

※合併処理浄化槽にした場合、年に1度の法定検査、定期的な清掃やメンテナンスの費用が必要となります。

問 市民課生活環境班 ☎22-9121

一地域でいきいきー通いの場 VOL.92

平戸市内各地域で、週に1回以上、「平戸よかよか体操」や趣味活動を行う住民主体の通いの場を紹介します。

☎長寿介護課高齢者支援班(地域包括支援センター) ☎22-9133

「体操と懇親会が毎週の楽しみ！！」

令和6年2月に活動を始めた、田平町福崎地区の「福崎よかよか体操」。毎週、元気に声をかけあいながら集まって活動しています。



**福崎よかよか体操** 代表/須藤 セイ子さん

活動日/毎週木曜日 午後1時30分～

活動場所/福崎公民館

開催地区/田平町福崎地区

特徴/よかよか体操に取り組み、終了後には懇親会で親睦を深めています。1人暮らしの皆さんも、にぎやかに話すことを楽しみにしています。

「平戸よかよか体操」CD・DVDを無償貸し出し中です！また、平戸市ホームページでも動画を公開しています！

3月のオレンジカフェ日程表

※参加料がかかる場合があります。

平戸市内各地域でオレンジカフェを開設しています。内容は、脳トレ、認知症予防講話、情報交換、茶話会、専門職相談など、事業所ごとに異なります。参加する際は、下表の連絡先に事前にご連絡ください。

名称	とき	ところ	連絡先
介護予防カフェ「毎快Deカフェ」	3月1日(土) 9:00～11:00	木引田介護スクエア内 (木引田町)	リハビリ特化型通所介護毎快 (☎22-7154)
介護予防カフェ「よろうで喫茶」	3月18日(火) 10:15～12:00	平戸市社会福祉センター (岩の上町)	平戸市社会福祉協議会 (☎22-2180)
認知症予防カフェ「とかじん」	3月23日(日) 10:00～12:00	デイサービスセンターとかじん (岩の上町)	デイサービスセンターとかじん (☎23-3388)
認知症予防カフェ「およりよ」	3月29日(土) 10:00～11:30	ホープドリーム (職人町)	地域包括支援センター (☎22-9132)
介護予防カフェ「えつなん」	3月9日(日) 10:00～11:30	平戸荘デイサービスセンター (紐差町)	代表 濱田 (☎090-3850-8153)
認カフェ「いなほ」	連絡先へお尋ねください。	和く話く交流館 (生月町)	いなほグループ (☎53-3012)
介護予防カフェ「ゆ～らり」	3月19日(水) 10:30～12:00	生月高齢者生活福祉センター (生月町)	平戸市社会福祉協議会生月支所 (☎53-2615)
介護予防カフェ「ふれあいカフェ」	3月13日(木) 14:00～16:00	大島高齢者生活福祉センター (大島村)	平戸市社会福祉協議会大島支所 (☎55-2100)
介護予防カフェ「ニコニコ」	3月6日(木) 13:30～15:00	平戸市福祉保健センター (田平町)	平戸市社会福祉協議会田平支所 (☎57-2223)
介護予防「ふれあいカフェ」	3月19日(水) 10:00～11:30	東地区交流センター (田平町)	田平まちづくり協議会 (☎29-9008)

侗族の村を訪ねて

中国には、人口の9割以上を占める漢族のほかに、55の少数民族が存在し、それぞれ独自の風習を持っています。

私は正月休みに、中国西南部の少数民族居住地域「貴州省黔东南」の侗族の村を訪れました。黔东南には、苗族や侗族の集落が点在し、民族色豊かな建築、風習、食文化、衣装などが多いの観光客を惹きつけています。

1月は観光シーズンではありませんが、それでも侗族の伝統的な文化を体験することができました。

毎晩、村人たちは中央の鼓楼広場に集まり、焚き火を囲んで、民族音楽「侗族大歌」を歌い、村を訪れた人たちと輪になって踊ります。



▲広場での侗族大歌

（私が侗族の村を訪れた理由は、侗族大歌を自分の耳で聞いてみたかったからです）

今回は、ちようど村のサッカーチームの遠征出発式に遭遇し、村人たちと一緒に宴席を囲む機会に恵まれました。

翌日、村人の案内で村を散策しました。侗族の人々にとって、布を染めること、農作業、歌うこと、家の修繕をすることが日常の営みなのです。山の中で、ありのままの素朴な暮らしに触れることができよかったです。



国際交流員  
張 芸  
(チョウ・ゲイ)  
(中国出身)

問 文化交流課交流推進班 ☎22-9143